

小笠原諸島の世界自然遺産への推薦について

1. 遺産名：小笠原諸島

2. 共同推薦省庁（予定）：

環境省、林野庁及び文化庁

3. 今後のスケジュール：

- | | |
|-----------|---|
| 平成21年7月 | 小笠原国立公園の公園区域及び公園計画の変更について審議会に諮問答申 |
| 平成21年7-9月 | 法令等所管省庁による審議会報告
環境省(7/9)、林野庁(9月)、文化庁(未定) |
| 平成21年7-8月 | 「世界自然遺産候補地小笠原諸島管理計画(案)」の意見公募を実施 |
| 平成21年8月 | 候補地地域連絡会議において管理計画(案)を取りまとめ、関係機関が共同で策定 |
| 平成21年9月上旬 | 世界遺産条約関係省庁連絡会議(推薦書の仮提出について政府として正式決定) |
| 平成21年9月 | 世界遺産委員会事務局へ推薦書類を仮提出(9/30) |
| 平成22年1月 | 世界遺産条約関係省庁連絡会議(推薦書の提出について政府として正式決定) |
| 平成22年1月 | 世界遺産委員会事務局へ推薦書類を提出(2/1) |
| 平成22年夏頃 | IUCN(国際自然保護連合)による現地調査 |
| 平成23年7月頃 | 世界遺産委員会による登録の可否の審査 |

原園
笠立
小国

特別保護地区1.7倍に

環境省 世界遺産登録目指す

09.07.09 日経(ワ)

環境省は小笠原国立公園

(東京都小笠原村)の

保全策を強化する。開発

などを最も厳しく制限す

る「特別保護地区」の対

象を現在の1.7倍にあ

たる約4900haに拡大

する。小笠原諸島の世界

自然遺産登録を目指す、

開発規制や外来種対策に

よって固有の自然を保護

する環境を整備する。

小笠原国立公園の保全

策の見直しは1972年

の指定以来初めて。9日

の中央環境審議会(環境

相の諮問機関)で計画の

たたき台を示し、9月に

正式決定する。

アサヒエビネ(ラン科

の花)やアカガシラカラ

スバトなど固有生物の保

護のため、動植物の捕獲、

採取などを厳しく規制す

る特別保護地区の面積を

1.7倍にするほか、国

立公園の指定対象区域を

1933年に広げ66629haに
にする。ギンネムなど外
来樹を伐採しやすくなる
体制も整える。

世界自然遺産

小笠原を推薦方針

環境省 クジラ回遊域も編入

環境省は来年1月にも、「東洋のガラパゴス」といわれる小笠原諸島（東京都）を、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に世界自然遺産の登録候補として推薦する方針を固め、9日開かれた中央環境審議会に報告した。生態系を保全するため、ザトウクジラの回遊海域なども国立公園区域に編入する。

小笠原諸島は南北400キロにわたり、三十余りの島々で構成される。希少な動

植物が生息することで知られ、「進化の実験場」とされている。

政府は平成19年1月、小笠原諸島を世界遺産登録候補の暫定リストを提出。しかし、外来種のノヤギやトカゲのグリーンアノールなどが希少動植物の生態系を脅かしており、登録が危ぶまれてきた。このため柵の設置や捕獲を実施し外来種駆除を進め、一定の成果が上がってきた。生態系保全を強化するた

め、アサヒエビネなどの植物や、アカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリなどが生息する陸の公園区域を現行の6436㏎から193㏎に拡大。このうち、もっとも規制が厳しい特別保護地区は、現行の約1.7倍に拡大する。海域ではザトウクジラが出産、子育てしやすいように水深150〜200㏎の沖合最大5㏎までを公園区域内に編入。現行面積の約4倍の10万㏎に広げる。

世界遺産

小笠原を正式推薦へ

来年十月 生物進化の「実験室」

政府は7日、小笠原諸島(東京都)を国連教育科学文化機関(ユネスコ)に世界自然遺産の登録候補として正式推薦する方針を決めた。来年十月に申請し、11年の登録を目指す。環境省は9日の中央環境審議会に、小笠原国立公園区域の拡大など規制強化案を諮問す

るなど、貴重な自然を守るための対策を強化していく。政府は07年1月、世界遺産登録候補を載せる「暫定リスト」に自然遺産として小笠原諸島を追加した。だが、外来種のヤギやカガシのグリーンアールなどが、希少な動植物の生態を悪化させてお

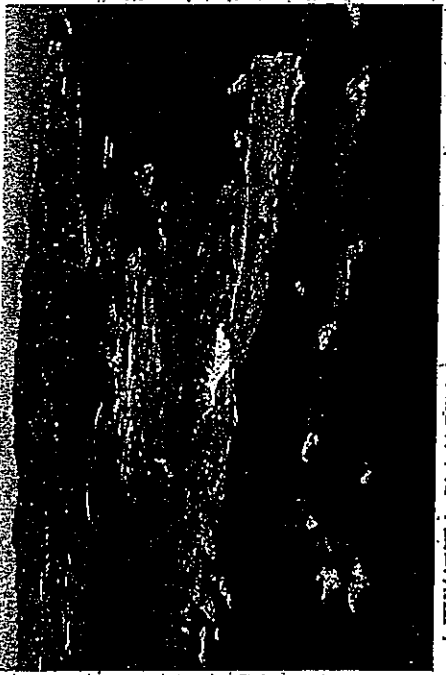
り、遺産登録を危ぶむ声が出ていた。環境省や東京都などは外来種の駆除や保護冊の整備を進めたところ、オナガシギやドリ等の繁殖が回復するなどの効果が見えてきた。さらに対策を強化するため、現在陸域で約6400haある国立公園区域を約190ha拡大することにした。このうち、落ち葉の採取も規制されるほか最も規制が厳しい「特別保護地区」を現行の陸域の約4割から約7割に増やす。このほか、ザトウクジラなどが生息する沖合5km圏内を、

海域の国立公園区域に編入。海域の公園面積を従来の4倍の約10万haに広げる計画だ。現在の世界遺産は国内外で890件。登録件数の増加に伴い管理が手薄になるなどの懸念から、ユネスコの審査

は厳しくなっている。環境省は「新発見のハートルは高くなっている。だが、希少種が多く生息し、生物の進化を促す生きた実験室と言える小笠原の価値は世界に通用する」と話す。(下桐美雅子)

小笠原諸島

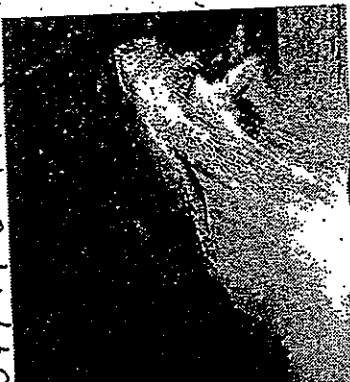
東京から約1000km南に位置し、南北400kmにわたり大小約30の島々が並び、父島と母島に約2500人が暮らす。推薦区域は約7500ha。海洋島で固有の動植物が多く、昆虫の26%が固有種だ。オガサワラオオコウモリやクロアシホウドリなど国際的な希少種が7種が生息し、東洋のガラパゴスと称されている。



太平洋に浮かぶ小笠原諸島の南島。(手前)と父島。07年4月、本社機から須賀川理撮影

ザトウクジラ生息域国立公園に

09/7/8 朝刊(あ) 27



小笠原諸島

豊かな生物多様性で「東洋のガラパゴス」とも呼ばれ、11年夏の世界自然遺産の登録を目指している小笠原諸島(東京都)の生態系の保全を強化するため、環境省は7日、国立公園の区域を拡大し、計画も大幅に見直し方針を明らかにした。

「世界遺産」目指し計画見直し

陸上では、小笠原特有の植物「アサヒヒメノコ」や希少動物「アマガシカラサバト」などの保全のため、森林伐採や工作物設置などの規制が最も厳しい「特別保護地区」を現行の約1.7倍、公園全体の4分の3にあたる49,844haに拡大する。海ではザトウクジラ「写真小笠原観光協会提供」などの生息地となる水深150〜200mの沖合までを公園区域に編入。面積は現状の約2.4万haが約10万haになる。サンゴ礁が豊かな海域については、新たに7カ所を海中公園地区に指定。全体では計14カ所で780haになる。見直しは7年9日の中央環境審議会自然環境部会の了承を得て、9月に決まる。